

# 草津市市民まちづくり提案事業協働事業評価シート（行政）

## ■協働事業概要

事業名	市制60周年記念「平成26年度子どもアスリート育成事業」Kids NEW チャレンジ Sports!! サイクルフィギュアに挑戦！～自転車でこんなことができるんです！～
市担当課	教育委員会事務局 スポーツ保健課
団体	滋賀サイクルフィギュアクラブ ブルーレイクエンジェル
事業内容	スポーツ活動を通して生涯にわたってスポーツと親しむひとづくりを目指し、未来のスポーツ文化を担う子どもたちを育てていくことを目的とし、サイクルフィギュアへの挑戦をきっかけに、子どもたちの“スポーツを楽しむ・スポーツに親しむ・習慣的にスポーツをする”きっかけづくりを行う。
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 協働委託 / <input type="checkbox"/> 協働協定 / <input type="checkbox"/> 協力（※当てはまるものに○をしてください。）
実施(契約)期間	平成26年 5月19日～平成27年 1月31日 【継続事業・ <input checked="" type="checkbox"/> 新規事業】
予算額	200,000円
実績	5回実施、成果発表会により、スポーツの普及を図った。

## ■プロセス評価

評価・・・1:よくできた 2:ある程度できた 3:あまりできなかった 4:できなかった 5:該当しない  
「5」を選択された場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

			評価欄
事業 成果 や 波 及 効 果	1	事業の成果目標は達成できましたか。	1
	2	協働で事業推進することによって、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	1
	3	協働で事業推進することによって、組織にとって何か変化をもたらしましたか。	1
	4	事業の結果(成果)などを広く情報提供をしましたか。(予定がある場合も含む)	1
	5	市民自らが地域の課題解決に取り組む機運が芽生えるなど、従来よりも市民の参加機会が広がりましたか。	5
	6	経費の見積もりは適切でしたか。	1
	7	トラブルが発生した際の準備や対応は適切に行われましたか。	1

「5:該当しない」を選択された場合は、その理由を記入してください。

番号	理 由
5	本事業は、子どもたちがスポーツをするきっかけづくりとして実施しており、またアクロバティックなサイクルフィギュアの指導には、専門的知識を要するスタッフが必要なため、一般市民の参画には、原則該当しない。

## ■成果と課題点

協働することで成果があった点	課題点
団体と行政が、協働により役割分担を行い、事業を実施したことで、双方が責任を自覚し、より効果的な事業とするべく連携・協力し、充実した内容で実施することができた。	団体と行政の役割分担は、どちらが実施した方が効果的なのか等を十分に検証・協議したうえで行わなければならないが、負担の偏りや責任の所在が不明確になってしまうが、本事業では、密接な連携・協力により、十分に達成できた。

# 草津市市民まちづくり提案事業協働事業評価シート（NPO）

## ■プロセス評価

評価…1:よくできた 2:ある程度できた 3:あまりできなかった 4:できなかった 5:該当しない  
「5」を選択された場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

			評価欄
事業 成果 や 波及 効果	1	事業の成果目標は達成できましたか。	1
	2	協働で事業推進することによって、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	1
	3	協働で事業推進することによって、組織にとって何か変化をもたらしましたか。	1
	4	事業の結果(成果)などを広く情報提供をしましたか。(予定がある場合も含む)	1
	5	市民自らが地域の課題解決に取り組む機運が芽生えるなど、従来よりも市民の参加機会が広がりましたか。	5
	6	経費の見積もりは適切でしたか。	1
	7	トラブルが発生した際の準備や対応は適切に行われましたか。	1

「5:該当しない」を選択された場合は、その理由を記入してください。

番号	理 由
5	本事業は、子どもたちがスポーツをするきっかけづくりとして実施しており、またアクロバティックなサイクルフィギュアの指導には、専門的知識を要するスタッフが必要なため、一般市民の参画には、原則該当しない。

## ■成果と課題点

協働することで成果があった点	● 課題点
お互いの強み(行政は、広い参加者募集や活動広報、公共施設の確保、団体は、競技の専門性やネットワーク)をしっかりと出し合い、綿密な話し合いをしたうえで事業を実施したことで、非常に充実した内容となり、目標を達成する事ができた。	団体だけではこのような大きな事業が出来なかったことと、受講生の満足度も大きかったことを踏まえると、今後もこのような協働事業を続けることで、子どもが習慣的にスポーツを楽しめる機会が多くできると考える。